

二〇一六年一〇月四日(黒川ダリア園参加者二三名)

新種なるダリアは名前募集中	わかば
赤のまま一叢風の意のままに	わかば
山裾を拓きし里のダリア園	わかば
里山の畦の道ゆき虫浄土	わかば
里山の小径を綴る秋の草	わかば
百選の里の道ゆき秋深む	わかば
秋蝶を虜としたる花野かな	うつぎ
里山に眠るピザ窯昼の虫	うつぎ
向かひあひ栗選果する嫁姑	うつぎ
芋茎干す茅葺屋根の深庇	うつぎ
簾吊る木造校舎外厠	うつぎ
明治てふ古りし分校廊涼し	よし子
秋惜しむ母校の壁の傷跡に	よし子
軒下は蜘蛛の巣だらけ廃校舎	よし子
明治てふ木造校舎小鳥来る	よし子
カメラ女子構図に迷ふダリア園	ひかり
ダリア園こんなに種類多しとは	ひかり
大花野立ち去りがたし蝶もまた	ひかり

妙見山を隠さんと霧立のぼる	せいじ
をちこちに花野散らばる里山路	せいじ
明治の香残る校舎や里の秋	ともえ
夢比べてふ花ダリア競ひ咲く	ともえ
枯木立幹に銃獵禁止札	なおこ
ねこじゃらしゆらゆら風に遊びけり	なおこ
腰曲げて毬栗拾ふ媪かな	宏 虎
炎めくダリアあたりを圧倒す	宏 虎
草じらみつけて里山吟行す	よう子
農小屋を隠すばかりに秋桜	よう子
廃校舎跡の裏山虫すだく	小 袖
虚栗ここだ散らばる岨の道	ぼんこ

吟行句会みの選

二〇一六年一〇月四日(黒川ダリア園参加者二三名)